

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
<p>1. 心身ともに健やかな子どもを育てる。 ・自己肯定感、自尊感情を育てる。 ・健康な体で、ねばり強い心を育てる。</p> <p>2. 基礎学力の定着を図り、自ら考える子どもを育てる。 ・学習規律、読み・書き・計算の定着。 ・感動体験、成就感、達成感を味わわせる。</p> <p>3. 自らを律し、助け合う子どもを育てる。 ・決まりを守って人に迷惑をかけずに生活できる。 ・協働の喜びを味わわせ、主体性・実践力を育成する。</p>	<p>□学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 S 】 年度末【 】</p> <p>□授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 B 】 年度末【 】</p> <p>□言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 C 】 年度末【 】</p> <p>□学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 B 】 年度末【 】</p> <p>□授業で学んだことが振り返ることができるよう家庭学習の仕方を提示している 当初【 C 】 年度末【 】</p> <p>□家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 B 】 年度末【 】</p>

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」
 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」
 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】 (全 国) ○国語・算数・理科ともに県平均と比べると正答率は低い。ただ、昨年度の県学力検査と比べると、国語については、上向きになっている。 ○算数Aと国語Aの無解答率は、県平均を上回っており、あきらめずに取り組むことができた。 ○国語の「言語についての知識・理解・技能」については、他の観点よりはできている。また、算数の「数量や図形の知識・理解」についても他の観点よりはできている。ただ、国語Bの記述に関しては課題が見られる。</p> <p>(県) ○3年生の国語・4年生の国語、算数は、県平均を上回った。5年生の国語、算数については、県平均を下回った。 ○国語の適切な言葉で書くや文章を書く問題に課題が見られる。 ○漢字を読む・書くの問題は比較的良好にできている。</p>	<p>【学習状況調査の結果】 ○テレビ等の視聴時間は、県平均を下回っている。 ○家庭での学習時間が1時間以上するの割合が6年生は、県平均に比べて少ないが、5年生は県平均を上回っている。 ○「自分には、よいところがある」と思っている児童の割合が県平均に比べて低い。 ○「自分で計画を立てて勉強する」児童の割合が県平均に比べて低い。 ○「先生があなただよいところを認めてくれている」と思っている児童の割合が県平均と比べて高い。 ○「地域行事に参加する」「ボランティア活動に参加する」の割合が県平均と比べて高い。 ○1日当たりの読書時間で、全くしない児童の割合は2割程度であった。 ○地域の人へのあいさつができていると思っている児童の割合が県平均を上回っている。</p>

成 果	課 題
<p>○独自に取り組む大崎漢字・大崎計算を学期ごとに行い、合格証をだすことによって、漢字や計算に対する取り組みが意欲的になった。 ○5・6年生は、国語・算数とも課題が見られるが、3・4年生については基礎的な力がついてきている。 ○家庭学習強化週間を設けることによって、家庭学習への意識が向上してきている。</p>	<p>○国語・算数とも記述式の問題に課題が見られる。 ○規範意識が低いことで、学校生活の充実がはかかれていない。 ○家庭学習への取り組みで、保護者への啓発を積極的に行う必要がある。</p>

何を(改善すべきこと)	いつまでに (成果検証の期限)	どこまで (対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況 (12月末現在)	達成 度	達成状況 (年度末)	達成 度	次年度への改善点・重点課題
授業改革	学年末	全学年 ・児童が、意欲的に考え、ねばり強く、時には友だちと協力して課題解決に取り組む。	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを通して、すべての児童が考え、ねばり強く、だれとでも助け合えるようになる。 ・データベースを使っての補充学習に取り組む。 ・漢字、計算は、反復を通して、しっかり基礎を身につけさせる。					
規範意識・自己肯定感を高める。	学年末	全学年 ・校内ルールをしっかり守れるようになる。 ・自分にはよいところがたくさんあると言えるようになる。	・「ほめほめカード」の取り組みを強化する。 ・児童会を使つての校内ルールの大切さや必要性を考え、徹底させる。					
家庭学習の定着と充実	学年末	全学年 ・目標時間クリアの児童数を増やす。 ・強化週間にとどまらず、毎日の学習時間が増える。	・家庭学習強化週間を継続していく。 ・目標時間の設定を検討する。 ・家庭への協力・啓発を行う。 ・学習のやり方を身につけさせる。 ・がんばっている児童の様子を紹介する。					

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」
 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
<p>・学方向上の会で、家庭学習への取り組みやメディアとの関わりについての取り組みを交流し、校内で研修する。 ・生徒指導の充実では、SELピアサポートについて研修する。 ・学区で統一した取り組みとして、「笑顔であいさつ」「チャイムスタート」「家庭学習の時間確保」に取り組む。 ・中学生から、「中学校の様子について」の話を聞き、中学校生活への展望をもつ。</p>	<p>○家庭学習の取り組みについて、「家庭学習のすすめ」を配付し協力を仰ぐ。また、学校・学級通信等で家庭学習の重要性を知らせる。 ○学級P活動で、懇談会を積極的に開き、児童の様子や学習への取り組みをしっかりと伝え、家庭教育の重要性を理解してもらい協力を仰ぐ。 ○長期休業中に家庭でノーマディアの関わりを意識させるカードをつけさせる。 ○地域ボランティアの方に協力いただき、体験学習に取り組む。 ○毎月1週間取り組む、「がんばる大崎っ子」を通して保護者への協力を依頼する。</p>